



平成25年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報！

2013/5/7 現在

【財務分析】

第1問（34点）

問1 C 問2 A 問3 B 問4 D 問5 A 問6 B 問7 A 問8 B
問9 C 問10 C 問11 D 問12 C 問13 A 問14 C 問15 C 問16 A
問17 B

第2問（12点）

問1 E 問2 E 問3 D 問4 E 問5 B 問6 D

第3問（18点）

I

問1 D 問2 C 問3 D

II

問1 C 問2 A 問3 C

III

問1 E 問2 C 問3 B

第4問（26点）

(1)

① G ② E ③ F ④ C
ア E イ D ウ D

(2)

⑤ D ⑥ I ⑦ C ⑧ E
エ A オ C

(3)

⑨ A ⑩ I
カ A キ D ク C ケ B

(4)

⑪ J ⑫ B ⑬ C
コ C サ B シ E ス B

この解答速報の著作権は、TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は、TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

この解答速報の著作権は、TAC（株）のものであり、無断転載・転用を禁じます。



2013証券アナリスト1次試験（春）

「財務分析」

2013年（春）試験は、例年通り大問4問の出題で、各大問への配点もおおよそ同じであった。第1問の正誤選択問題の難易度が高い一方で、分析総合問題は高得点が可能な内容であり、レベルについては、全体として例年通りであったと思われる。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、17問の出題であった。会計制度に加え、前回は見られなかった財務諸表分析および株式価値評価についての問題が計3問出題された。内容としては、「会計情報の限界」「利益情報の役割」に関する問題など、特に会計制度についての問題の難易度が高かった。

第2問の個別計算問題は、6問の出題であった。1株当たり当期純利益の計算は目新しかったが、各論点とも基本的な計算処理が問われており、難易度としては標準的なレベルの出題であった。

第3問の総合計算問題は、9問の出題であった。Ⅰ企業結合会計、Ⅱ退職給付会計、Ⅲスワップ取引について3問ずつ出題された。従来問われていなかった論点である、企業結合の対価の額の算定やスワップ取引に関する出題がされたため、難易度は若干高かったと思われる。

最後の第4問の分析総合問題は、例年通りのオーソドックスな内容中心で平易であり、満点を十分に狙える問題であったと思われる。

以上

TAC 証券アナリスト講師室